

事業の背景・目的

ヒョウモンモドキ保全地域協議会によるヒョウモンモドキの保護活動は平成24年に始まった。令和2年度の主たる活動として、新生息地及び既存生息地で野生復帰させた生息域外保全個体群が継続して繁殖するように、それら全生息域での植生環境整備を励行した。また、令和1年度から開始した広島市森林公園昆虫館における生息域外保全（累代飼育）を継続して実施し、必要に応じて幼虫の一部を野生復帰させた。しかし、気候変動や植生遷移の急速な進行等により、生息状況は安定しているとは言い難い。今後も生息環境整備を継続して取り組み、生息地と発生数の増加を目指したい。

事業の内容

事業① 生息域外保全個体群の維持
・生息域外保全個体群の累代飼育を順調に進めることができた。

事業② 野生復帰個体群のモニタリングおよび追加復帰
・新生息地における発生状況をモニタリングし、その評価に従って、数カ所に広島市森林公園昆虫館及びせら県民公園の累代飼育幼虫を追加復帰させた。

事業③ 新生息環境の維持と追加創出
・新生息環境の維持に向け、植生環境整備を実施した。
・植生遷移が急激に進んでいる既存生息地の直近に、新たに創出した生息環境において、幼虫の放虫に備えた環境整備を実施した。

得られた成果

平成30年3・4月に生息域外保全個体群を野生復帰させた新生息地では、令和2年6月に全ての箇所で見逃し確認され、7・8月には次世代に当たる複数の幼虫巣を確認することができた。それらの数ヶ所には、広島市森林公園昆虫館で取り組んでいる生息域外保全個体（幼虫）を追加復帰させた。

広島市森林公園昆虫館では、令和1年度に引き続き、生息域外保全個体の採卵のようすを一般公開し、多くの来訪者を得た。また、3世代目となる多数の幼虫を確保することができたことから、引き続き累代飼育と期間限定の一般公開を行う予定となっている。

ヒョウモンモドキの絶滅回避には、人為による生息環境の維持が欠かせない。したがって、事業終了後もヒョウモンモドキ保全地域協議会は存続し、行政支援や自助努力による財源を確保しつつ、構成団体と協働して組織的かつ継続的に生息環境整備や生息域外保全に努めたい。